

国際キャンプ in あしよろ ～夏の思い出～

■ 事業のねらい

子どもたちが国際的な視野の中で異文化に対する理解を深めるとともに、ALT等とコミュニケーションを図りながら英語を用いた体験活動をとおして無理なく英語に親しむ機会とする。



- 実施日 平成23年8月6日(土)～7日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学1年生 20名
- 参加実績 参加者:29名
 小1=2名、小3=9名、小4=9名
 小5=4名、小6=2名、中1=3名
 男子=17名、女子=12名
 (十勝管内・釧路管内・名古屋市)
 運営協力者:一般6名(含ALT4)、学生5名(含留学生4)
- 備考 活動場所:足寄町

1 事業実施の背景



国際化が進み、英語を使う機会が多くなる中、21世紀の国際社会に貢献できる人材を育成するため、英語によるコミュニケーションが重視されている。また、新学習指導要領において小学校5・6年生の外国語活動が必修化され、中学校英語への円滑な移行が図られている。早いうちから英語に親しむことで発音も良くなり、使える英語が身に付くといわれる中、本事業では、参加者が、国際的な視野の中で異文化に対する理解を深めるとともに、国際交流員や英語実習助手、留学生など外国人スタッフとコミュニケーションを図りながら、ゲームやアウトドアクッキング、アウトドアスポーツなどの野外体験活動をとおして無理なく英語に親しむために実施するものである。

2 プログラムデザイン

		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
8/6 (土)	13:00 受付 開会行事 オリエンテーション		①コミュニケーションゲーム ②テント設営		野人・多国籍料理 夕食				暗闇レクリエーション		シャワー 就寝準備	就 寝
		6	7	8	9	10	11	12	13			
8/7 (日)	起 床	洗 面	熱 気 球 体 験	朝 食	①テント撤収 ②インターナショナルタイム ③振り返り (アンケート・感想文)			昼 食	閉 会 行 事	13:00 終了		

■ アクティビティについて



■ 意図

- 足寄の豊かな自然の中で、キャンプや野外炊飯などの体験活動をとおして、外国人とのふれあいや異文化交流を図る。
- 冬に開催する国際キャンプに向けて、参加者同士のコミュニケーションを深め、楽しい思い出を作る。

■ 留意事項

- 外国人スタッフとのコミュニケーションを円滑に行うため、留学生を各グループにリーダーとして配置したほか、無理なく英語に親しめるように体験活動を中心としたアクティビティを実施した。
- テント泊では、事前の実地踏査を含め、綿密なテント設営計画を策定し、外部からの不審者や大型野生動物の侵入を防ぐように努めた。
- アウトドアクッキングでは、火や調理器具を安全に扱うように指導した上、各班の外国人スタッフなどの大人をとおして、けがの未然防止に努めた。

3 活動の様子



■ 当日の様子

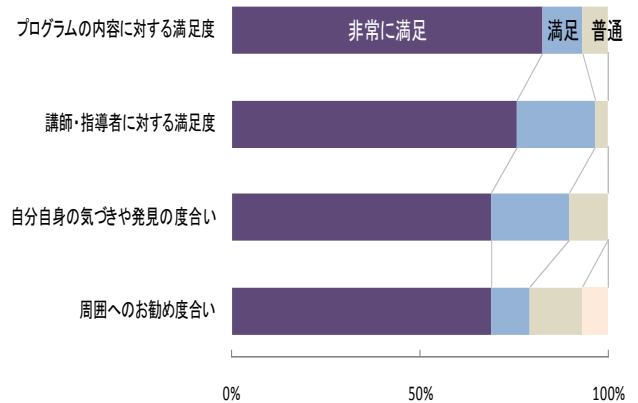
初日は、外国人スタッフによるコミュニケーションゲームの後、外国人と一緒にアウトドアクッキングや「国際きもだめし」などを行い、外国人と積極的にコミュニケーションを図って交流を深めた。就寝前の英語本の読み聞かせでは、生きた英語に興味津々に聞き入り、想像力をふくらませていた。そして静かな森の中で虫の音色を聞きながら、グループごとにテントに入って眠りについた。

2日目は、早朝から熱気球に乗り、上空から雄大な景色を眺めたあと、外国人スタッフに教わりながら手作りのサンドイッチで朝食をとった。最後は、外国人スタッフの出身地であるカナダやアメリカ、アイルランド、オーストラリア、フィリピン、ベトナムなど様々な国の文化や習慣などを英語で話してもらい、外国のゲームをして最高の盛り上がりを見せながらすべてのプログラムを終えた。

参加した子どもたちからは、「国際キャンプに参加して多くの人からたくさんの英語を学びました。最初は外国の人たちとはあまり話とかできなかったけど最後は誰とでも仲良くできたりして最高のキャンプだった。」「料理を外国人と作ったり外国人とお友だちになれたことがとても楽しかったです。また来たいです。」など、2日間楽しみながら英語に慣れ親しむことができ、1月に開催予定の冬の国際キャンプでの再会を約束し合って記念の写真に収まった。

■ 参加者の声

- 参加者の満足度については、右グラフのとおり。
- 活動についての感想
「知らない人もなかよくなれてよかった。えいごはいまいちだったけど、少しおぼえた。まとめて言うとなじった」(小3)
「ふだんはできない外国人との交流ができてよかった。」(小4)
「外国の人とたくさん遊んだり話したりして、前よりもっと英語に興味が出ました。また参加したいです。」(小5)
「友だちと再会できてよかった。新しい友だちもできて前から友だちみたいに仲良くなれてうれしかった。外国人と交流できて、英語を聞き取る力がついた。」(中1)



4 事業評価

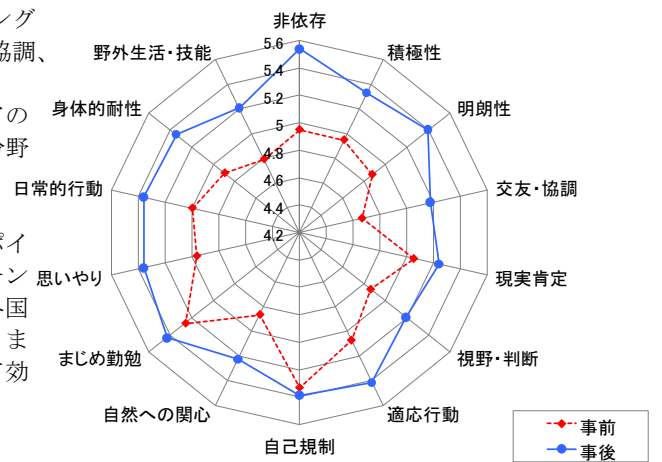
■ 参加者の変容【IKR調査結果】

グループの仲間と一緒にテントを設営したり、アウトドアクッキングをするなど、仲間と協力して活動する場面をたくさん設け、交友・協調、明朗性、思いやりなどの向上を図ることに重点を置いた。

結果として期待していたとおりの効果が得られたほか、アウトドアの活動が多かったことから、野外生活・技能、非依存、身体的耐性の分野でも向上が目立った。

■ 結果の分析・考察

野外生活・技能、非依存、身体的耐性の各項目において約0.5ポイントの大きな伸びが見られたが、これはテント泊やアウトドアクッキング、熱気球等のアウトドア体験の活動によるものと考えられる。さらに外国人や外国語とのふれあいが、非依存、視野・判断を大きく向上させ、また協力し合う集団体験活動を多く取り入れたことも、参加者にとって効果的なプログラムであったと考える。



5 まとめ



■ 成果

- キャンプや野外炊飯、ゲーム、熱気球等アウトドアでの自然体験活動を多く取り入れたことから、開放的な環境の中で外国人と自然に交流を図ることができ、無理なく英語に慣れ親しむことができた。
- 少人数によるグループ編成と様々なアクティビティに外国人スタッフがたずさわった結果、参加者一人ひとりの外国人とふれあう機会が多くなり、参加者の満足度も大きく向上したと考える。
- 参加者を支援するボランティアリーダーにベトナムやフィリピン、アイルランド等様々な出身国の留学生を配置したによって、参加者やボランティア同士の共通語が英語となり、簡単な英単語を使ってコミュニケーションを図る場面が見られた。

■ 課題・今後の方向性

- ねらいに沿った事業を展開することはできたが、天候の急変や小学校低学年の参加、定員を超える参加者数等によって忙しいスケジュールとなった。参加者の健康管理や自由時間における交流の促進などの点からアクティビティを精査するなど、ゆとりを持ったスケジュールが必要である。